## 表 2「事例 1 の内容から読み取る遊び課題と環境」

事例1の内容	事例に含まれている環境	事例から読み取る頂点と枝	遊び課題
その日、プールに入るには肌寒かったが、子どもたちの気持	ユキナ	R2 ユキナ⇔メグミ	1
ちは水遊びに向けて高まっており、ユキナ、メグミ、サトミ	メグミ	R2 ユキナ⇔サトミ	やりたいことを実
は登園してあいさつを交わすとすぐに「水泳ごっこがしたい」	サトミ	R2 サトミ⇔メグミ	現できる遊び仲間
と言いあっている。			をみつけ、やりたい
			ことをイメージす
			る。
ユキナ、メグミ、サトミは、水着に着替える。 自然と海に行	ユキナ	R1 ユキナ⇔メグミ	2
くというイメージが膨らみ、海の中で泳ぐ動きをしている。	メグミ	R1 ユキナ⇔サトミ	遊びのイメージを
	サトミ	R1 サトミ⇔メグミ	広げるモノと関わ
	水着	R7 ユキナ⇔水着	り、友達と動きを共
	注:「水着」は、メグミ、サトミ、ユキナに対して	R7 サトミ⇔水着	有する。
	言葉を介さなくても「水泳ごっこ」からさらに「海	R7 メグミ⇔水着	
	に行く」というイメージを膨らませる、身振りを		
	生む働きをしている (R7)。		
ユキナとメグミは浮き輪を作りたいといい、保育者は <u>製作</u>	ユキナ	R2 ユキナ⇔保育者	3
<u>コーナーで、</u> 新聞紙を子どもの身体が入るくらいのドーナツ	メグミ	R2 メグミ⇔保育者	保育者から、遊びに
状に丸めて、浮き輪の原型を作ってやる。 ユキナとメグミは	保育者	R2 ユキナ⇔メグミ	必要なモノを作る
保育者の作り方をじっとみつめている。	新聞紙	R8 保育者→ユキナ	アイデアを得る。
	水着	R8 保育者→メグミ	
	製作コーナー	R3 保育者→新聞紙	
	注:保育者が浮き輪の原型を作る姿は、子どもた	R3 ユキナ→水着	
	ちを魅了して、見つめさせている(R8)。 そして、	R3 メグミ→水着	
	保育者と子どもは言葉を交わしあっている		
	(R2)。(密度計算の分母が理論上可能な最大値		
	とされている関係上、→が引かれるのは、各ノー		
to the late of the	ド間に、→と←の最高で2つまでとしている。)		
ユキナとメグミは、製作コーナーで、保育者の真似をして、	ユキナ	R1 ユキナ⇔メグミ	4
浮き輪を作り始める。保育者の作ってくれた原型をテープで	メグミ	R8 マイ1→ユキナ4	遊びに必要なモノ
補強したり、折り紙で飾りをつけたりする。	マイ	R8 マイ1→メグミ4	を、保育者が示した
<b>隣でマイが水中眼鏡を作っているのをみて、いいなと感じて</b>	浮輪原型	R8 水中眼鏡1→ユキナ4	モデルを基に、自分
いる。(マイも水着を着ている)。	テープ	R8 水中眼鏡1→メグミ4	たちで工夫して作
	折り紙	R3 ユキナ→浮き輪原型	る。
	水着	R3 ユキナーテープ	
	水中眼鏡	R3 ユキナ→折り紙	
	製作コーナー	R3 メグミ→浮き輪原型	
	注:マイや、マイの作っている水中眼鏡は、子ど	R3 メグミ→テープ	
	もたちにとって魅力的で視線を引き付けている (R8)。マイの動作を見つめ続けた体験が、遊び	R3 メグミ→折り紙 R3 ユキナ→水着	
	課題 7 で浮上し、マイの動作を模倣することと	R3 メグミ→水着	

## 添付資料2

	なる。	R3 マイ→水着	
		R3 マイ→水中眼鏡	
保育室前の廊下の壁面は海の中の様子を構成したものにな	ユキナ	R7 壁面⇔ユキナ	5
っている。ユキナとメグミは浮き輪をつくると、それをつけ	メグミ	R7 壁面⇔メグミ	友達とイメージを
て泳ぐ。メグミは「本当の海みたい」と言っており、海で泳	浮輪	R2 ユキナ⇔メグミ	共有しながら、ごっ
ぐイメージを持っていることがわかる。	水着	R7 ユキナ⇔浮き輪	こ遊びを楽しむ。
	壁面	R7 メグミ⇔浮き輪	
	注:海の装飾の壁面も、浮き輪、水着も、子ども	R7 ユキナ⇔水着	
	たちから泳ぐという身振りを自然に引き出して	R7 メグミ⇔水着	
	いる (R7)		
ユキナとメグミが泳いでいるのをみて、サトミも浮き輪を	サトミ	R5 サトミ→ユキナ	6
作りたくなり、製作コーナーへきて、作り始める。保育者の	ユキナ	R5 サトミ→メグミ	友達の遊びに刺激
作ってくれた原型をテープで補強したり、折り紙で飾りをつ	メグミ	R3サトミ→浮き輪の原型	を受けて、遊びに必
けたりする。	浮輪の原型	R3サトミ→折り紙	要なモノを作る。
	折り紙	R3サトミ→テープ	
	テープ	R3サトミ→水着	
	水着		
	製作コーナー		
ユキナとメグミは泳いでいるうちに、今度は水中メガネが	ユキナ	R2 ユキナ⇔メグミ	7
欲しくなり、「あのさあ、あれつくろう」と一緒に言い合い、	メグミ	R2 ユキナ⇔サトミ	友達の作っていた
保育室の製作コーナーにもどって水中メガネをつくる。	サトミ	R2 メグミ⇔サトミ	モノに刺激を受け
メガネづくりでは、サトミも動きが同調し、一緒に作る。	水中眼鏡	R3 ユキナ→水中眼鏡	て、遊びに必要なモ
	水着	R3 メグミ→水中眼鏡	ノを作る。
	製作コーナー	R3 サトミ→水中眼鏡	
		R3 ユキナ→水着	
		R3 メグミ→水着	
		R3 サトミ→水着	
メグミとサトミは二人して海 <u>(壁面の場所)</u> に戻り、泳ぐ。	メグミ	R7 壁面⇔サトミ	8
	サトミ	R7 壁面⇔メグミ	友達とイメージを
	水中眼鏡	R2 メグミ⇔サトミ	共有しながら、ごっ
	浮輪	R7 メグミ⇔浮き輪	こ遊びを楽しむ。
	水着	R7 サトミ⇔浮き輪	
	壁面	R7メグミ⇔水着	
		R7 サトミ⇔水着 R7 メグミ⇔水中眼鏡	
		R7メクミ⇔水中眼鏡   R7サトミ⇔水中眼鏡	
	メグミ	R7 壁面⇔サトミ	g
<u>園のノールに入るとさは足期的に体む、</u> という週去の体験   からか、泳いでいるうちに「休む」というイメージがメグミ	プクミ   サトミ	R7 壁面⇔メグミ   R7 壁面⇔メグミ	9   友達と話し合いを
からか、休いているうらに「休む」というイメージがメクマーの中に生まれ、サトミに「おやすみしない?」と言って、近	ソドミ   水中眼鏡	R1 壁画サクシミ R2 メグミ⇔サトミ	及壁と話し合いを   通じてイメージを
の中に生まれ、リトミに「おやりみしない?」と <u>言うし</u> 、近   くの巧技台 <u>の下</u> を海に見立てて、 <u>巧技台の上に座って</u> 休む。	小中w與	R2 / ク ミ⇔ り トミ   R7 メグミ⇔浮き輪	埋してイメージを   共有しながら、ごっ
\ ^ / J J X 口 <u>^ / J X 口 <sup> </sup> </u>	水着	R7 サトミ⇔浮き輪	こ遊びを楽しむ。
	小個   壁面	R7 メグミ⇔水着	こ処して木しむ。
	- 工川	ハエノントサル相	

## 添付資料2

	巧技台	R7 サトミ⇔水着	
	注:海の装飾の壁面も、浮き輪、水着も、子ども	R7 メグミ⇔水中眼鏡	
	たちから泳ぐという身振りを自然に引き出して	R7 サトミ⇔水中眼鏡	
	いる (R7)	R3 サトミ→巧技台	
		R3 メグミ→巧技台	
そこへ製作コーナーに残っておやつをつくっていたユキ	ユキナ	R2 ユキナ⇔メグミ	1 0
ナが合流して、巧技台をさして「ここは海の家ね」と話し	メグミ	R2 ユキナ⇔サトミ	友達と話し合いを
合う。ユキナの作ったおやつを渡されると自然に「海の家	サトミ	R2 メグミ⇔サトミ	通じてイメージを
でおやつを食べる」という動きが生まれる。	ユキナの作ったおやつ	R7 ユキナのおやつ⇔ユキナ	共有しながら、ごっ
	水中眼鏡	R7 ユキナのおやつ⇔サトミ	こ遊びを楽しむ。
	浮輪	R7 ユキナのおやつ⇔メグミ	
	水着	R3 ユキナ→水着	
	巧技台	R3 メグミ→水着	
	壁面	R3 サトミ→水着	
	注:巧技台が「海の家」である、という動きは自	R3 ユキナ→浮き輪	
	然に生じたというよりも、見立てて、話し合い、	R3 メグミ→浮き輪	
	了解されるという過程がある (R3)。 ユキナの作	R3 サトミ→浮き輪	
	ったおやつは、子どもたちの間に自然に「食べる」	R3 ユキナ→水中眼鏡	
	身振りを生成している(R7)。	R3 メグミ→水中眼鏡	
	海のイメージは持続しているが、水着、浮き輪、	R3 サトミ→水中眼鏡	
	水中眼鏡というモノは、以前のように泳ぐという	R3 サトミ→巧技台	
	動きを生み出してはいないため、R7ではなくR	R3 メグミ→巧技台	
	3とする。	R3 ユキナ→巧技台	
マイは、ユキナ・メグミ・サトミたちが巧技台で食べている	マイ	R5 マイ→メグミ	1 1
様子を、じっとみている。みながら、「折り紙で作ったおやつ」	ユキナ	R5 マイ→サトミ	友達の作っていた
をパックにつめている。	サトミ	R5 マイ→ユキナ	モノに刺激を受け
	メグミ	R3 マイ→パック	て、遊びに必要なモ
	折り紙	R3 マイ→水中眼鏡	ノを作る。
	パック	R3 マイ→折り紙	
	水中眼鏡		
	製作コーナー		
	注:マイは、離れたところからユキナ、サトミ、		
	メグミたちの、巧技台(海の家)でおやつを食べ		
	る遊びをみていて、自分もその遊びを意識しなが		
	らおやつを作るという模倣をしている(R5)		
マイも、ユキナ・メグミ・サトミたちのいる巧技台にやって	サトミ	R2 サトミ⇔ユキナ	1 2
きて、パックにつくったおやつをさしだし、「みんなモモ食べ	ユキナ	R2 サトミ⇔メグミ	友達とイメージを
る?」という。マイ、ユキナ、メグミ、サトミは一緒に巧技	メグミ	R2 サトミ⇔マイ	共有しながら、ごっ
台に一緒に並んで座り、食べる。	マイ	R2 ユキナ⇔メグミ	こ遊びを楽しむ。
	マイのつくったおやつ	R2 ユキナ⇔マイ	
	ユキナのつくったおやつ	R2 メグミ⇔マイ	
	水中眼鏡	R7 マイのおやつ⇔サド	

## 添付資料2

<ul> <li>壁面</li> <li>巧技台</li> <li>だ:マイのおやつや、ユキナのおやつは、子ども</li> <li>たちの間に、自然と「食べる」という身振りを生み出している(R7)。巧技台は、子どもだちの間に自然と、「休む、座る、食べる」という身振りを生み出している(R7)。</li> <li>R7 巧枝台サトミ</li> <li>R7 巧枝台サトミ</li> <li>R7 巧枝台サトミ</li> <li>R7 巧枝台 サイス</li> <li>R3 ユキナー 水中眼鏡</li> <li>R3 ユキナー 水・中眼鏡</li> <li>R3 エキナー 水・中眼鏡</li> <li>R3 メグミー 水・中眼鏡</li> <li>R3 オトミー 水・中眼鏡</li> <li>R3 サトミー 水・中眼鏡</li> <li>R3 マイー 水・中眼鏡</li> <li>R3 マイー 水・中眼鏡</li> <li>R3 マイー 水・中眼鏡</li> </ul>		巧技台 注:マイのおやつや、ユキナのおやつは、子どもたちの間に、自然と「食べる」という身振りを生み出している(R7)。巧技台は、子どもたちの間に自然と、「休む、座る、食べる」という身振り	R7 ユキナのおやつ⇔サトミ R7 ユキナのおやつ⇔ユキナ R7 ユキナのおやつ⇔メグミ R7 ユキナのおやつ⇔マイ R7 巧技台⇔サトミ R7 巧技台⇔ユキナ R7 巧技台⇔スイ R7 巧技台⇔スイ R3 ユキナ→水中眼鏡 R3 ユキナ→水着 R3 メグミ→水中眼鏡 R3 メグミ→水着 R3 メグミ→水着 R3 メトミ→水中眼鏡 R3 サトミ→水中眼鏡 R3 サトミ→水中眼鏡 R3 サトミ→水中眼鏡 R3 サトミ→水中	
--	--	---	--	--